



公益社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-13 虎ノ門実業会館四谷ビル
TEL(03)3357-3741/FAX(03)3357-7444
<http://www.jcbl.or.jp/> E-mail:info@jcbl.or.jp

報道関係各位

2016年9月27日

2018年アジア競技大会 ブリッジが正式種目に決定

9月25日に開催されたアジア・オリンピック評議会で、コントラクトブリッジ（以下ブリッジ）が2018年アジア競技大会の正式種目に採用されることが決定しました。アジア競技大会はオリンピックに次いで、アジアの中では最も大きいスポーツイベントで、アジア版オリンピックとも言われています。これまで、囲碁、チェス等のマインドスポーツ種目が採用されていて、2018年開催国のインドネシアではブリッジのプレイヤー人口の多さから、初めての採用が期待されてきました。

ブリッジは2020年東京オリンピックの追加種目候補となり、いわゆる「スポーツ種目」ではないことから注目を浴びましたが、採用には至りませんでした。今回のアジア競技大会への採用で、マインドスポーツとしてのブリッジがさらに注目の的となることが予想されます。

【コントラクトブリッジとは...】

16世紀の英国でその前身となるゲーム「ホイスト」が生まれ、1925年に現在の形となりました。文豪サマーセット・モームが『人間が考え出した最も知的で最もおもしろいゲーム』と評したブリッジは、パートナーとペアを組み、2対2で競うトランプゲーム。欧米では社交上欠かせない教養の一つとされていますが、その一方、“運”の要素を極力排除して分析力、推理力、記憶力、戦略や駆け引きの力が求められる競技であることから、ブリッジは、チェスと同様、国際オリンピック委員会（IOC）にマインド（頭脳）スポーツとして認定されています。

日本のブリッジ人口は約20万人と推定されています。以前は官公庁・企業で海外に滞在した人やその家族、留学経験者、職場や大学で覚えた人が愛好者のほとんどを占めていましたが、最近では、子育てを終えた女性、定年後の男性が「楽しみながら頭を鍛えられる、仲間作りに最適」と、新しい趣味として始めるケースが増えています。

また、「考える力」や「協調性」が必要とされるブリッジは、その教育的価値が国際的に認められており、世界の多くの国の教育機関で授業やクラブ活動に採用されています。日本でも現在、東京大学、早稲田大学、青山学院大学、明治大学、大阪大学（開講順）でブリッジが単位の与えられる授業として行われています。

本件に関するお問合せ

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟
所在地: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-13 虎ノ門実業会館四谷ビル
Tel:03-3357-3741 Fax:03-3357-7444 E-mail:info@jcbl.or.jp <http://www.jcbl.or.jp>